

2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月12日

上場会社名 ジーエルテクノホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 255A URL https://www.gltechno.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長見 善博
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 麻田 俊弘 (TEL) 03-4212-6677
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	31,014	—	4,513	—	4,913	—	2,911	—
2024年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 3,682百万円(—%) 2024年3月期第3四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	260.25	—
2024年3月期第3四半期	—	—

(注) 当社は、2024年10月1日に共同株式移転により設立されたため、前年同四半期実績及び対前年同四半期増減率はありません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	57,820	42,992	74.4
2024年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 42,992百万円 2024年3月期 一百万円

(注) 当社は、2024年10月1日に共同株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	107.00	107.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2 当社は2024年10月1日に共同株式移転により設立されたため、前期実績及び当期の第2四半期までの実績はありません。

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,190	—	6,280	—	6,670	—	4,110	—	352.78

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2 当社は、2024年10月1日に共同株式移転により設立されたため、対前期増減率はありません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無
- (注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	13,681,230株	2024年3月期	—株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	640,601株	2024年3月期	—株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	11,186,701株	2024年3月期3Q	—株

- (注) 1 普通株式の期中平均株式数は、当社が2024年10月1日に共同株式移転の方法により設立された会社であるため、会社設立前の2024年4月1日から2024年9月30日までの期間については、ジーエルサイエンス(株)の期中平均株式数に株式移転比率を乗じた数値を用いて算出し、2024年10月1日から2024年12月31日までの期間については、当社の期中平均株式数を用いて算出しております。
- 2 当社は2024年10月1日設立のため、前年同期及び前年度の株式数は記載しておりません。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・当社は2024年10月1日に共同株式移転の方法によりジーエルサイエンス(株)及びテクノオーツ(株)の共同持株会社として設立されましたが、経営統合以前、テクノオーツ(株)はジーエルサイエンス(株)の連結子会社であり、当社の連結範囲は経営統合以前のジーエルサイエンス(株)の連結範囲から実質的な変更がなく、当社の業績は従来のジーエルサイエンス(株)の通期連結業績を基礎として算定されることとなります。
- ・当四半期連結会計期間は、当社設立後最初の四半期連結会計期間ですが、「第3四半期連結会計期間」として記載しています。
- ・四半期決算補足説明資料は、T D n e t 及び当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(企業結合等関係)	9

1. 経営成績等の概況

当社は2024年10月1日に共同株式移転の方法によりジーエルサイエンス株式会社及びテクノクオーツ株式会社の完全親会社として設立されました。経営統合以前、テクノクオーツ株式会社はジーエルサイエンス株式会社の連結子会社であり、当社の連結範囲は経営統合以前のジーエルサイエンス株式会社の連結範囲と実質的な変更はありません。ただし、当第3四半期連結累計期間は、当社の設立後最初のものとなるため、前連結会計年度及び前年同四半期連結累計期間との対比は行っておりません。

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間(2024年4月1日から2024年12月31日まで)におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加により回復の動きが見られました。しかし、不安定な国際情勢に伴う原油等をはじめとするエネルギー資源や原材料価格の高騰、円安基調の継続による物価上昇等の影響が続いており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、売上高につきましては、全ての事業で堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、31,014百万円となりました。損益につきましては、営業利益 4,513百万円、経常利益 4,913百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益 2,911百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(分析機器事業)

分析機器事業におきましては、景気の先行きが不透明な状況が続いている中でも順調に推移しました。

国内においては、装置、消耗品ともに好調でした。装置類に関しては、環境分析向け及び食品分析向けを中心に、高速液体クロマトグラフ関連装置や水質分析用装置、特注ガスクロマトグラフ装置などが売上を牽引しました。消耗品についても、液体クロマトグラフ用カラムだけでなく、固相抽出カートリッジや試料調製容器などの幅広い製品群が好調でした。

海外においては、中国経済の停滞の影響を受けつつも、液体クロマトグラフ用カラム等の消耗品を中心に売上高は堅調に推移しました。装置に関しても、ガスクロマトグラフ周辺装置の販売が好調でした。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 13,973百万円、営業利益は 1,273百万円となりました。

(半導体事業)

半導体業界におきましては、パソコンやスマートフォン向けの需要回復は依然として鈍く、在庫調整が続いております。一方で生成AI分野の需要拡大を背景に、AI関連投資は引き続き好調ではありますが、市場全体の回復を牽引しているとはまでは言えない状況です。また、国内外で先端半導体の製造工場の新設や増設の動きも継続されているものの、半導体市場全体の回復は2025年後半以降と見込まれております。

以上のような環境の中、当事業では、今後に向けた新規需要の掘り起こしや競争力強化のため、高付加価値製品の開発と拡販によるマーケットの拡大、国内の増産体制構築のための準備等を行い、さらなる成長に向けて邁進しております。豊富な受注残高と工場の高稼働率を背景に、売上高や営業利益は計画を大幅に上回る事ができました。また、受注残高は引き続き高水準を維持する見込みです。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 15,750百万円、営業利益は 3,181百万円となりました。

(自動認識事業)

自動認識事業におきましては、警備端末や入退室セキュリティ端末へのモジュール組込み導入が堅調に進んだ事に加え、物流市場においての仮設資材管理用途でのシステム導入なども進みました。

製品分類毎の売上高において「モジュール」はホームセキュリティ機器、モバイル機器などへの組込み導入も後押ししましたが、「完成系」、「自動認識用その他」は住宅関連設備の遅延などの影響を受けました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 1,290百万円、営業利益は 40百万円となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は 57,820百万円となりました。内訳は、現金及び預金 8,376百万円、売掛金 9,203百万円等の流動資産が 34,863百万円、有形固定資産 17,332百万円、無形固定資産 636百万円、投資その他の資産 4,988百万円の固定資産が 22,956百万円であります。

負債合計は 14,827百万円となりました。内訳は、買掛金 2,078百万円、短期借入金 3,669百万円等の流動負債が 10,448百万円、長期借入金 2,754百万円、退職給付に係る負債 245百万円等の固定負債が 4,379百万円であります。

純資産は 42,992百万円となりました。主な内訳は、資本金 300百万円、資本剰余金 10,371百万円、利益剰余金 30,068百万円等の株主資本が 40,664百万円であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	8,376,664
受取手形	444,521
電子記録債権	3,100,275
売掛金	9,203,553
商品及び製品	3,204,823
仕掛品	4,250,638
原材料及び貯蔵品	5,750,231
その他	536,670
貸倒引当金	△3,780
流動資産合計	34,863,599
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	7,295,097
土地	5,137,685
その他（純額）	4,899,389
有形固定資産合計	17,332,172
無形固定資産	636,016
投資その他の資産	
退職給付に係る資産	533,310
その他	4,460,234
貸倒引当金	△4,996
投資その他の資産合計	4,988,549
固定資産合計	22,956,738
資産合計	57,820,337

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(2024年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形	555,656
電子記録債務	1,436,458
買掛金	2,078,417
短期借入金	3,669,814
未払法人税等	456,042
賞与引当金	425,678
その他	1,825,993
流動負債合計	10,448,061
固定負債	
長期借入金	2,754,677
役員退職慰労引当金	1,232
退職給付に係る負債	245,133
その他	1,378,576
固定負債合計	4,379,618
負債合計	14,827,680
純資産の部	
株主資本	
資本金	300,000
資本剰余金	10,371,833
利益剰余金	30,068,560
自己株式	△75,611
株主資本合計	40,664,782
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	1,477,803
繰延ヘッジ損益	1,654
土地再評価差額金	△312,234
為替換算調整勘定	1,112,650
退職給付に係る調整累計額	47,999
その他の包括利益累計額合計	2,327,874
純資産合計	42,992,657
負債純資産合計	57,820,337

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	31,014,487
売上原価	20,008,260
売上総利益	11,006,227
販売費及び一般管理費	6,492,438
営業利益	4,513,789
営業外収益	
受取配当金	107,183
為替差益	197,829
不動産賃貸料	75,148
その他	113,857
営業外収益合計	494,019
営業外費用	
支払利息	38,402
不動産賃貸原価	49,188
その他	7,150
営業外費用合計	94,741
経常利益	4,913,067
特別損失	
固定資産除却損	1,134
投資有価証券売却損	1,051
特別損失合計	2,185
税金等調整前四半期純利益	4,910,882
法人税、住民税及び事業税	1,285,867
法人税等調整額	224,782
法人税等合計	1,510,649
四半期純利益	3,400,232
非支配株主に帰属する四半期純利益	488,874
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,911,357

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	
四半期純利益	3,400,232
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	113,990
繰延ヘッジ損益	△5,054
為替換算調整勘定	180,694
退職給付に係る調整額	△7,468
その他の包括利益合計	282,162
四半期包括利益	3,682,395
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	2,948,762
非支配株主に係る四半期包括利益	733,632

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計上の見積りの変更)

(棚卸資産の収益性の低下による簿価切下げにおける見積りの変更)

これまで当社半導体事業では、一定の期間を超えて保有する棚卸資産については、帳簿価額を切り下げた価額をもって連結貸借対照表価額としてきました。

しかしながら、半導体業界における棚卸資産の保有期間が変化する中で、当社半導体事業の棚卸資産の保有期間も変化してきており、また、一定期間を超えて保有する棚卸資産を評価するための十分なデータも蓄積されてきたことから、当第3四半期連結会計期間の期首より、帳簿価額の切り下げ額を評価する方法を変更いたしました。

この変更により、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間の売上原価は160百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が同額増加しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	分析機器事業	半導体事業	自動認識事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	13,973,535	15,750,658	1,290,292	31,014,487	—	—	31,014,487
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	23,709	24,565	48,274	134,135	△182,409	—
計	13,973,535	15,774,368	1,314,858	31,062,762	134,135	△182,409	31,014,487
セグメント利益	1,273,370	3,181,751	40,229	4,495,351	17,844	593	4,513,789

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ運営事業、管理業務受託事業等が含まれております。

2 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年10月1日に共同株式移転の方法によりジーエルサイエンス株式会社及びテクノクオーツ株式会社の完全親会社として設立(以下「本株式移転」という。)されました。本株式移転等により、当第3四半期連結会計期間期末において資本金が300百万円、資本剰余金が10,371百万円、自己株式が△75百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社は、2024年10月1日に共同株式移転の方法によりジーエルサイエンス株式会社及びテクノクオーツ株式会社の完全親会社として設立されました。

株式移転設立完全親会社である当社は、旧親会社で株式移転完全子会社となったジーエルサイエンス株式会社の四半期連結財務諸表を引き継いで作成しています。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	1,320,967千円
のれんの償却額	22,681 "

(企業結合等関係)

1. 共通支配下の取引等

(1) 取引の概要

①結合当事企業の名称及びその事業の内容

株式移転完全子会社

ジーエルサイエンス株式会社(分析機器関連製品の製造・販売及び同種商品の仕入・販売)

テクノクオーツ株式会社(半導体製造装置用石英製品等の製造・仕入・販売)

②企業結合日

2024年10月1日

③企業結合の法的形式

共同株式移転による持株会社設立

④結合後企業の名称

ジーエルテクノホールディングス株式会社

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引のうち、非支配株主との取引として処理しています。

(3) 子会社株式の追加取得に関する事項

取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合日に交付した当社の普通株式の時価	7,387,754千円
取得原価	7,387,754千円

(4) 株式の種類別の移転比率及びその算定方法並びに交付した株式数

①株式の種類別の移転比率

ジーエルサイエンス株式会社の普通株式1株に対して当社の普通株式1株を、テクノクオーツ株式会社の普通株式1株に対して当社の普通株式2.1株をそれぞれ割当交付しました。

②株式移転比率の算定方法

ジーエルサイエンス株式会社及びテクノクオーツ株式会社がそれぞれ第三者算定機関に株式移転比率の算定を依頼し、提出された報告書に基づき、両社の法務アドバイザーからの助言を参考に慎重に検討し、両社間での交渉・協議の上、合意いたしました。

③交付した株式数

18,379,430株